



オオミスアオ

《私が子どもだった頃》(前編) 熊井 健

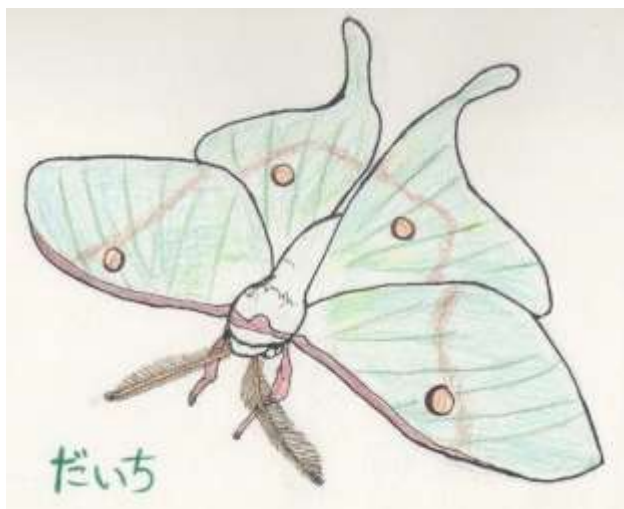
私の幼少期から小学生の頃という、世の中はあのバブル期の真っ只中でした。

子供たちの遊びと言えば、主にゲームが中心で、新型のゲーム機が次々と発表され、皆夢中になっていました。私もそれなりに、友達とゲームに興じ楽しい時を過ごしていましたが、私の場合、大人しく家の中で遊んでいるのは冬の間だけでした。春が訪れ、啓蟄を向かえると、毎年、いても立っても居られない種動に駆られ、小学校の裏の朝比奈の山や、侍従川、ちょっと足を伸ばして鎌倉の八幡様の池など多種多様の生物を探しに、かけまわっていました。

小学校の低学年の頃は授業中無許可で探索へ出かけ、担任の先生やクラスメートに迷惑を掛けてしまったこともありました。本当にあの頃はとんでもない奴でしたね。皆忘れてしまっていることを祈りたいです。

幼稚園から小学校の頃まで、私はよく先生方からも「虫博士」と呼ばれていましたが、実は好きなのは昆虫だけではありませんでした。カエル、ヘビ、魚やカニ、亀などにもとても興味がありました。

幼稚園から小学校3年くらいまでは茨城県はつくば市の森へゴールデンウィークも夏休みも家族総出でキャンプへ出かけしていました。



オオミスアオ (大水青)

学名: *Actias artemis*

青白色をした大きなガで、その美しさから学名には月の女神アルテミスの名が付けられています。成虫の前翅長は80-120 mmほど。出現期は4-8月頃。初夏と夏の2回発生し、蛹で冬を越します。モミジ、ウメ、サクラの葉を食べるため、都心の街路樹などでも見かけることがあります。侍従川流域での数は少ないですが、ときおりコンビニなどの明かりに飛んできて見ると驚きます。成虫は口が退化しているので、物を食べたり飲んだりすることはありません。

解説：熊井健

初めはカブトムシ目当てでしたが、さすが水郷つくば。アマガエルにトウキョウダルマガエル、アメリカザリガニにモツゴ。またコオイムシやミズカマキリ等等、水生昆虫との出会いもあり、おそらくこの頃から増々、生き物への興味が広がっていったと思います。後にカブトムシやクワガタ、ザリガニは家の近所でもけっこう生息していることを知り、ちょっとへこみました。ですが、つくばの昆虫館の館長さんにタガメの一歯幼虫を数匹託され、四歯幼虫まで育てた経験をさせてもらったのは、つくばに通っていたからだと思います。脱皮の様子を父がビデオで記録していましたが、その様子は今でも鮮明に覚えているほど感動的なものでした。

小学校2年生の夏休み、当時クラスメートの虫友達のH君がお母さんの田舎軽井沢で採ってきたクワガタ(たぶんノコギリクワガタ?)をくれたことがありました。それはまさに衝撃でした。カブトムシより斬新な体形に曲がった大あご。。それからというもの僕はクワガタの虜になっていました。図鑑で調べると、種類数も多くとても奥が深いことを知り、大人になった今ですらけっこう夢中です。

それからは夏休みの旅はすべてクワガタ絡みで、ずいぶん家族をつき合わせてしまったものでした。箱根、山梨、福島、那須、群馬。。。。

(つづく)

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ ヤエヤマノコギリクワガタ ～ (クワガタムシ科)

学名 : *Prosopocoilus Pseudodissimilis*

体長 : ♂24~63 ミリ、♀23~34 ミリ

分布 : 石垣島、西表島

八重山諸島の石垣島、西表島に生息する固有種のノコギリクワガタで本土のノコギリクワガタとは別種になります。かつてはタカサゴノコギリクワガタなどと呼ばれていました。

大きさは本土のものより小さくどんなに大型のものでも大あごが強く曲がることはありません。

クヌギやコナラのいない八重山諸島で本種はミカン、バンシロウ、アカメガシワなどから出る樹液を主食にしています。数はとても少なく、今までで一番見つけるのに苦労したクワガタムシでした。



沖縄県西表島7月

監修 : 熊井 (沖縄在住)

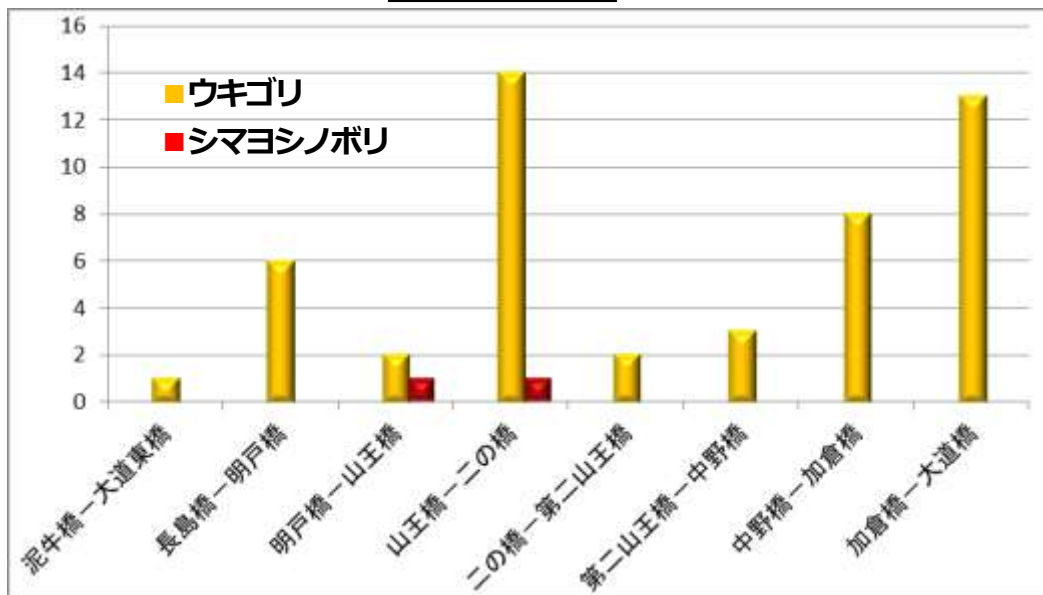
侍従川におけるハゼ類の産卵地点調査

侍従川に入ると川底の石の下で卵(卵塊)の世話をするハゼ類の姿を見かけることができます。これらのハゼ類は主にチチブ、ウキゴリ、シマヨシノボリであることが多く、いずれも春から初夏にかけて繁殖します。そんなハゼ類が侍従川の何処で産卵をしているのか、そして年による移り変わりを2012年から調査してきました。

☆今年の調査☆

- 調査日：2014年4月27日
- 調査方法：下流から石の裏を確認していき、卵塊の数および種名、地点名を記録した。また、卵塊の面積および卵塊が付着した石の面積、水深、底の状態、石の位置を記録した。なお、調査範囲は泥牛橋から大道橋までとした。

結果



今回の調査で確認されたのはほとんどウキゴリの卵塊でした。ウキゴリは山王橋～二の橋間と加倉橋～大道橋間で多く産卵していました。

なお、今回は産卵地点しか載せていませんが、卵塊と産卵石の面積の関係や水深などは改めて報告したいと思います。



卵塊を保護するシマヨシノボリ



調査の様子

学生部より

3月定例クリーンアップ

【活動報告1】

3月23日(日) 9:00~11:00 晴れ 12℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者:長野政治、長橋輝明、西澤博厚、八木場紀元、角田繁、関場俊子、北村肇、村田章夫、外川忠志、石渡博、細川一雄(計11名)

本年度最後のクリーンアップとなった当日は、桜の便りがチラホラ届く時期を肌で感じられるあたたかい日でした。更に本年度初めて草刈りを行わない活動日となりました。

源流域は、工事は終わったようですが当分立ち入らない事にしましたので、朝比奈橋から大道東橋間の清掃作業を上流班と下流班の2つに分かれて実施しました。

上流域はゴルフクラブや鉄パイプなど重たいものも多く、下流はビニールなどの袋物が多いようでした。西大道バス停の下は相変わらず煙草の吸殻が投げ捨てられていました。

途中、外川さんが駆けつけてきてくれましたので、急遽泥牛橋下に立て掛けてあった葦を引き揚げる事ができました。残っていた草を回収でき、これで今年度の作業は全て完了しました。



泥牛橋下

草刈り・清掃に参加していただいた皆さん! 1年間ありがとうございました。なお、草刈りメンバーも体力がなくなり、1年間を通しての草刈りは辛いとの意見が多いので、次年度は草刈りは行わず清掃作業のみ実施する事にしました。また、上流域は危険なため作業域から除外し、大道東橋~朝比奈橋間を行う事にしました。



ゴミ10袋と葦(軽トラ6台分)

春の息吹を味わおう!「野草つみ」

【活動報告2】

4月26日(土) 9:00~

中藤大治

4月26日、とっても気持ちの良い晴れの日、野草摘みが行われ、家族で久々に参加させて頂きました。(ノグサ? ヤソウ? なんて読むんや? ま、ええか) なんて思いながら、子どものお友達家族をお誘いしての参加でした。

何処で摘むのかな? と思ってついて行くと、朝比奈インターに近い民家のすぐ裏、土手? のような所でした。



た。森深くなくても取れるの?と少々びっくり。最初に、山田さん寺尾さんからヨモギ、アザミ、ノビル、タンポポの説明があり、みんな一気にむしり?いや摘み、始めます。内気なうちの子やお友達も、以外や以外、積極的にやってるやないですか!

そしてすぐ近くの場所へ移動し、第二弾開始です。これも民家のそば。今度は毒草のレクチャーもあり(ん〜見分けがつかん)、ユキノシタとセリを収穫。うちの4才児はセリ担当。山田さんや年上のお姉さん、色んな世代の方にたくさん声をかけてもらい、良い交流ができました。

午後は、収穫した野草を使った料理を食べました。クレソンパスタ、セリのピーナッツ和え、ヨモギパンケーキなどなど、できては食べては食べて、あっという間に夕暮れです。久々に夕暮れ時に帰る寂しさを感じながら、帰路につきました。

後日、道端を歩いていると、うちの子が「あ、ヨモギ!」と発見してびっくり! また、お友達のパパが「今後もどんどん参加したら」と言ってくれたそうで。いやあ行って良かったです。



《生き物発見記録》

4/25(金) 朝比奈切り通し入口湿地 消失確認

※土砂崩れがもとで、流れ込む水が止まり乾燥化したとのことです。シオヤトンボ、ヘイケボタル等の生存が極めて危険な状況です。

4/27(日)

・ゴクラクハゼを採集 侍従川では2例目(学生部) ①

・ヤマサナエの羽化を複数確認

羽化殻(抜け殻)をたくさん発見しました(学生部) ②

・ヤマサナエの奇形?を発見(深沢大地) ③

※腹部の先が異様にとがったヤマサナエの羽化殻を発見しました。近種で絶滅危惧種のキイロサナエに似ていたのでトンボの専門家である梅田孝氏と苅部治紀氏に鑑定をお願いしたところ、お二人ともヤマサナエとおっしゃられました。ただ苅部氏曰く、「これほど腹部のとがったヤマサナエは見たことがないので奇形の可能性もある」とのことでした。今回見つけた羽化殻は佐野が標本として大事に保管しておきます。

・ウシガエルを捕獲(学生部) ④

※ウシガエルは特定外来生物です。川に逃がさないようにしましょう。



4月定例クリーンアップ

【活動報告3】

4月27日(日) 9:20~11:30 晴れ 20℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：西澤博厚、八木場紀元、関場俊子、石渡博、石塚正夫、寺尾勝廣、山田陽治、右近雅美、時津彩子、今井康祥、今井幸子、今井翔太(小3)、今井はるか(年長)、深沢大地、長崎光則、小野田こうすけ(小6)、岡崎礼奈(小5)、高橋一太(小5)、金沢ゆきの(小4)、細川一雄(計20名)

本年度最初のクリーンアップとなった当日は、桜もすっかり散ってしまい、初夏を思わせる暖かい日でした。今年度から清掃を主とし、いくらかの草刈りを加味して活動する事にしました。

源流域は、工事は終わったようですが当分立ち入らない事にしましたので、朝比奈橋から大道東橋間の清掃作業を上流班と下流班の2つに分かれて実施しました。

地藏前橋から川に下り、清掃作業とセイタカアワダチソウの引き抜きと大きく伸びたススキを切りながら下流に向かいます。途中お好み焼きの道頓堀裏には相変わらずポイ捨てられた煙草の吸殻がありました。場所と毎月捨てられている事から従業員の仕業と思われます。⇒写真を撮っておき、4月28日に直接店の責任者に面会し状況を説明して吸殻を捨てないように従業員に指導するようお願いしました。

途中横浜屋裏の草むらで1m位のアオダイショウを発見しました。千歳園まで下ると下流グループは既に到着していました。子供達は生き物を捕まえて喜んでいました。

草刈り作業が無いと体力的に大変楽でした。県営住宅跡地には3週間ほど前に違法投棄されたゴミ(マットレス、バケツ、プラスチックケース、土嚢袋2袋に入ったP-タイル、古タイヤ、鉄パイプ等)がありました。

回収した土嚢袋6袋を置き、区政推進課に回収お願いのメールを打ってクリーンアップ作業を終了しました。



朝比奈橋下流の清掃作業



お好み焼道頓堀下の吸殻



作業を終わり一休み



不法投棄されたゴミ



回収したゴミ(土嚢袋5袋他)

5月24日土曜日に六浦西地区社会協議会主催の六浦西地区フレンド祭りに細川さんと寺尾で出店しました。場所は大道小学校トンボ池横。出展物は150匹の金魚、『金魚すくい』の開始です。

一つのポイで23匹をすくいご満悦の少年。無欲の境地で淡々とすくい続ける三歳児。3回も4回もすくいにくる子供達。金魚に注意力を奪われ、母とはぐれた少年。など、様々な子供たちが来てくれました。総勢166名の子供たちです。

六浦南小学校女の子2名が手伝いをかって出てくれて、しっかりとお客様の対応をしてくれました。一期一会とはよく言いますが、気持ちの良い出会いであり、出来事の日でした。



☆☆☆連載コラム☆☆☆

私子どもだった頃番外編 ~家の手伝い~ 高桑正敏

小学生の頃はまだ薪に頼っていた。風呂ですら燃料は薪だった。このため、近くの丘に出かけては帰りに手ごろな枯れ枝を拾って持ち帰ってきたりもした。日課というほどではなかったと思うが、まき割りも子どもの仕事の1つだった。斧を振りかざして薪を2つに割り、またさらに2つに割っていくという作業だが、いまの小学生にそんなことをさせたら危険だと非難されてしまうだろう。風呂焚きも子どもの仕事だった。丸めた新聞紙にスギ枝や細枝を置いて火をつけ、だんだんと太い薪をくべていくのである。風呂は幼いときは五右衛門風呂だったと聞いているが、私自身の記憶には残っていない。

庭に井戸も掘ってあったから、水をくみ上げるのも仕事だった。水道がすでに整備されていたので飲料用には使わなかったように思う。大きな木製のタライに水を注ぎ、洗濯板での洗濯もやらされた。井戸水はまた、庭や道路の打ち水に使ったりもした。井戸の中ではスイカを冷やしたりした。

暮れになると、近所の人たちが集まって狭い自宅の庭で餅つきを行った。杵(きね)を持って餅を打ったことがあるが、小学生には重くて体もふらつき、われながら危なかしかった記憶がある。このときは、むしろお手伝いというよりは打ち立ての餅をほおぼるのが役目?だった。2日くらい経つと、餅もほどよく固まって切りやすくなるので、包丁で方形に小さく切るのを手伝った。これは小学生にはけっこうな重労働だった。

5月定例クリーンアップ

【活動報告5】

5月25日（日） 9：20～11：30 晴れ 24℃
朝比奈橋～大道橋～大道東橋（清掃） 細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、八木場紀元、角田繁、村田章夫、石塚正夫、寺尾勝廣、徳丸東洋男、徳丸瞳真（小5）、徳丸修生（小1）、今井康祥、今井翔太（小3）、中藤大治、中藤詩織、中藤野乃（幼稚園）、細川一雄（計16名+JCN記者）

晩春と初夏が交互に訪れる5月末、当日も晴れて気持ちのいい日となりました。1年ぶりに、九州に引っ越した徳丸さんが、お孫さん2人を連れて参加してくれました。また、JCN南横浜ケーブルテレビが待従川の清掃活動を取材に来てくれました。

今回も多数の人が参加してくれましたので、上流班（横浜市管轄）と中流班（神奈川県管轄）に分かれて活動する事としました。JCNの記者の方には生き物が豊富で子供達が活動する中流域に付いて行ってもらい取材してもらいました。大人グループは上流域を担当し朝比奈橋から下流に向かって清掃活動を行ないました。

先月、煙草の吸殻を火の付いたまま投げ捨てないようお願いした道頓堀の裏手には写真を見せて依頼したのが効いたのか、今日は吸殻が捨てられていませんでした。途中セイタカアワダチソウを引き抜きながら大道橋まで下ってくると自転車が廃棄されていたので引き上げて、大道交番まで持って行き、盗難届が出ていない事を確認してもらい、廃棄処分する事にしました。丁度JCNの記者さんに引き上げ作業の内容を撮影してもらい、その場でインタビューを受けて取材を終了しました。

帰りに子供達にアイスキャンディー、ジュースとお菓子を大人には冷たい飲み物を買って千寿園に帰ると既に皆さん作業が終わっていましたので一息入れて活動を終了しました。



朝比奈橋下流の清掃作業



ブックオフ下流の清掃作業



廃棄自転車を回収



回収した自転車と土嚢袋5袋等

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

今春は三月なかごろから暖くなりました。三月末から四月初めが桜の満開で、山桜の下見事なタラの芽が楽しめました。

山道の傍らに多いソバナというおいしい野草があります。体によく、特に花粉症や喉の風邪によいようです。

アミガサタケは明るい林や公園などにふいに出てきます。海辺と朝比奈山地で二、三週のひらきがあり、山のものは遅いです。

桜が散る頃はゼンマイやウドが盛りになりました。

源流地域も地形により季節の早い遅いがあります。

ゲンジボタルは中流から源流へ見頃が進み、谷戸の奥がいちばん遅くなります。



山桜とタラの芽



ソバナ



アミガサタケ



ゼンマイ



ヤマウド

トピックス

3/30(日) 第 28 回横浜の水辺と緑を考える子ども会議が、横溝屋敷&トレッサ横浜で行われる。

実行委員長…深沢

副実行委員長…金澤

参加…深沢、金澤、柴田、高橋、長崎、島村、佐野、山田

5/12(月) 六浦南小学校5年生 野島遠足 (観察指導…山田)

5/12(月) 大道小学校 侍従川清掃が雨天順延→5/13 実施 (相川前会長、西澤、八木場、細川が協力)

5/25(日) 侍従川定例クリーンアップを JCN 横浜 TV が取材→5/26 ニュースで放送

5/27(火) 六浦小学校3年生に侍従川探検の事前指導 (山田が対応)

5/27(火) 高舟台小学校5年生の侍従川調べの事前指導 (山田が対応)



佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～新たな出発～

2006年4月、私は東海大学教養学部自然環境課程に入学しました。この頃の話になるとまだ若く初々しかった頃の佐野を知っている方も増えてきますね。まあ、もちろんこの話から8年が経過した今でも若くイケイケのつもりでいますが！笑

さて、大学生になった私は高校生時代とは打って変わって侍従会の活動に没頭しました。高校卒業と同時に事務局メンバーに加えていただき、大人の立場として考え実行していく楽しさを覚えたのでした。

最初にイベントのリーダーを任せていただいたのは、今では恒例行事となっている“冬の森たんけん”です。この時は初めて任されたイベントだったので、予め下見に行って蝶の卵を見つけておいたり、クワガタがいそうな朽木を山奥から引っ張り出して来て道端に置いておいたり、相当気合を入れました。もちろん当日は、やらせのような卵や朽木をあたかも偶然見つけたように振る舞い参加者の皆様をまんまと騙すわけですが、でも自分でイベントをやるということは大きな経験をするということで、スキルだけでなく侍従会に対する思いや自分の役割、ポジションなどを意識する良い機会になりました。

大学生になってからの私は高校生時代のブランクもあってか、“経験”を得たい！という強い貪欲さを意識して活動しました。私は、子どもの頃から将来は自然に関わる人生を過ごしたいと思っていました。でも実際そこにはどんな人がいてどんな世界があるのか知りませんでした。そんな中、私にたくさんの人と世界を紹介してくれたのが山田さんでした。

山田さんは「俺にはサノシンは育てられないからせめて人や場を紹介してあげたい！」と言って侍従会の中だけでなく、自然に関連する様々な世界に私を連れ出してくれました。そして、私もそれに応えて何でも付いて行きました。ひとえに自然に関係する活動と言っても色々な分野があり目的も様々です。

今でこそそれらの分野や目的は、優先順位はあってもすべて繋がっているものだと思っていますが、当時はただ漠然と「自分は虫が好きだから虫を守りたい！だから保全の仕事をしたい！」くらいにしか考えていなかったのも、とりあえず関係ありそうなことは全部経験してみよう！と思ったのでした。我ながら自分の前向きな向上心にはすばらしいと思います！笑

実際、その頃から培った経験や人脈は現在大切なものとなっています。ただ、色々な活動に広く浅く関わって根無し草になるのは良くないと思っていたので、市民団体における自分のホームと原点は侍従会であることは強く意識して活動することを心掛けていました。何はともあれたくさんのきっかけをくれた山田さんには心から感謝しています。山田さんは自分ではサノシンは育てられないと言いましたが、山田さんが育てた一番の傑作こそ佐野だと、自信過剰に自覚しております！笑

さて、もう一つ大人の立場として侍従会に関わるようになって私の人生に大きな影響を与えたことがあります。それは子どもたちとの付き合いから得られた啓発や教育、また人との繋がりという分野への意識です。これについてはまた改めて書きたいと思っていますが、虫のことが大半を占める私の頭の中に、“子ども”という分野が入り込んでくるとは思ってもいませんでしたし、そうさせてくれたのが紛れもなく侍従会の影響です。もちろん自分の中の主軸は虫ですが、それを取り巻く重要な部分として子どもたちへの意識を大事に思うようになりました。

というわけで、ざっくりですが、こうして当時19歳だった私はいろいろなことを経験し、考えながら新たな出発をするわけであります！人は10歳から20歳の10年間で心身共に最も成長すると言われていますが、20歳～30歳の10年はもっともっと成長してやるぞ！と19、20歳頃の私は決意しました。

さて、今の私はそれが実現出来ているでしょうか？笑 佐野真吾が語る侍従会の思い出の後半はそんな自分の成長や考え方の変遷を書きたいと思っています。そしてこの連載が後輩たちに少しだけでも影響を与えることができれば幸いです。

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく

虫のきょういく座談会とは？

“虫のきょういく座談会”とは？昆虫について興味を持つ志高き同志たちが教育的信念に基づき熱くたぎる話題で集う場である！…と思われる方も多いが、実際は食事をしながらおしゃべりを楽しむ場とも言える（最近特にその傾向にある）。ただいつも座談会の内容を書くにあたり、ネタに困っている佐野がお題をふったり、参加者からお題をいただいたりしている。ちなみに“虫のきょういく座談会”というネーミングは、昔、侍従川流域の小・中学校でおこなわれていた“町の教育座談会”からパクったものである。

タボいぜ通信の読者の皆様の中で、虫のきょういく座談会を「面白い！」と言ってくれる方は多い。大変嬉しくありがたい。しかし、「じゃあ次回は座談会に参加してください！」と誘うと「あっ…あははは…」と笑って回避しないでいただきたい…。多くの方に共通した反応である…。

虫のきょういく座談会は虫に興味がないければ参加できないのではないかとと思われる方もいるがそんなことはない。虫好きの中に一人虫嫌いの人が入り、虫好きに対して痛烈に突っ込んでいただくだけで、読み物としては面白い物になると期待している。とにかく誰かしら集わないと始まらないのでメンバーも話題も募集中だ。一見怪しい集会だが、是非参加していただきたい。



虫のきょういく座談会



虫のきょういく座談会

～本当に神のいる島、アラグスク～



参加者：山田、山下、佐野

4月8日の夜、佐野は大道のCOCO'Sに入店した。

山田「こっちこっち～」

山下「お久しぶりっす！」

佐野「ヨッシー久しぶりだね～☆」

ヨッシーこと山下氏は侍従会学生部のOBであり、現在日本大学の4年生である。筆者佐野とは5つ歳が離れているので、当時は大人と子ども程の歳の差を感じたが、現在はお互い成人を過ぎて対等に話せることに嬉しく思える。

山田「ヨッシーは卒業研究で侍従川に関することやりたいんだって！」

佐野「おお！ 素晴らしい☆」

こうして山下氏の卒業研究について3人は熱く語り合った。結局山下氏の卒業研究は“侍従川におけるハゼ類の保全と実践”といったようなテーマになったのだが、今回の座談会はこれが本題ではない！ 山田氏がトイレで席を立ったところから熱くたぎる座談会はスタートする。

佐野「ヨッシー最近どう？ いろいろ一緒に行こうよ☆」

山下「そうですね～ 愛川の合宿みたいにまた川で泳ぎたいなあ☆ 海でシュノーケリングでもいいすけどね☆」

佐野「おお！ 実は俺も最近シュノーケリングしてて、先日は八重山諸島の西表島と鳩間島で泳いできたよ！」

山下「八重山いいですね！ ウチも家族で昔から八重山にはよく行ってるんですよ！」

佐野「そうだったんだあ！！ ちなみに俺は、新城島以外は全部行ったよ☆」

山下「俺は新城島も行きましたよ！ 笑」

佐野「んなんだってえ！！」

二人で盛り上がっていると山田氏がトイレから戻ってきた。

山田「なになに？ 何盛り上がってんの??」

佐野「ヨッシー新城島行ったことあるらしいですよ！」

山田「なになに？ アラグスク島??」



新城島（アラグスク島）とは八重山諸島にあり、西表島の南東に位置する島である。島への交通手段は船しかなく、しかも5人以上いないと船を出してくれないという条件がある。また、人魚伝説でも知られる島で、昔は実際に人魚のモデルとなったジュゴンの大多産地だったそうだ。しかし、アラグスクにはそれ以上に一般観光客を拒む民族的で宗教的な信仰が存在する…

佐野「山田さん、八重山のアカマタ・クロマタって知ってますか？」

山田「聞いたことはある。お祭りだよな？」

佐野「アカマタ・クロマタは八重山の豊年祭に登場する神様なんですけど、中でもアラグスクの豊年祭は秘祭とされてるんです！ アラグスクのお祭りは八重山の島々の中でも特に信仰が強く、島の関係者しか参加できなかつたり、重要な部分に関しては島民の中でも限られた人しか見ることができないそうですよ！ そして、お祭りの様子は撮影、スケッチ、模造、公言等を固く禁じられているそうです。」

山田「へえ～！ 日本国内でそこまでの信仰心が残っている地域ってすごいね！」

山下「俺が行った時も御嶽（うたき＝本土でいう神社のような場所）には絶対に入らないように言われましたよ！」

佐野「確かお祭りの時期は島民以外入島できなくなるんだよね？ お祭りに参加する人たちはとり憑かれたように半狂乱になるっていうよね！」

山下「本当に小さい頃ですけど俺はその時期に島に行きましたよ。」

山田「まじで？ どんな感じなの？」

山下「それは言っちゃいけないんですよ！！」

山下氏はいったい何を見たのだろうか…彼は固く口を閉ざしたのだった。新城島の祭りは実際外部の人間も参加できる部分があるそうだ。しかし、関係者以外の人が見られる祭りはほんの一部でしかないという。

新城島の祭は秘祭と言われるだけあって様々な噂が囁かれているが、実際それを知るのは島の重要人物だけであり、彼らはそれを決して語らない。しかし、山下氏は最後にこう語ったのだった。

山下「アラグスクは世の中ではいろんな噂されてますけど、実際はめっちゃ綺麗で豊かな島ですよ！！」

こうして3人はいつか必ずアラグスク島に行くことを誓い解散したのであった。



(おわり)



だより

「全校侍従川・トンボ池清掃」

大道小学校恒例の春の清掃が
5月14日（水）に行われました。
前日の雨で1日順延となりましたが、
この日は晴天に恵まれ、大道小学校
2年生から6年生の児童約250名
が一斉に川に入りました。



侍従会及び、保護者のボランティアの方々の
協力で、リヤカー1台分のごみを拾い、川と親し
むことができました。
ご協力ありがとうございました。



平成26年度 前期の大道村の活動です。

武州金沢学講座

6月14日（土）（13:00～15:00）地域の歴史2

6月28日（土）（13:00～15:00）トンボ池の生き物たち

大道よもやま話

語ってもらおう、まちの昔

8月23日（土）

屋号から知ろう1

昔体験スクール

昔の道具を使って学ぼう

7月26日（土）

「涼もう」（13:00～15:00）

その他

9月13日（土）「音楽の夕べ」（18:00～19:30）

大道コミュニティ共催

侍従川定例調査報告 学生部

4月27日(日)

調査範囲：大道東橋～大道橋

生き物：クサガメ、ウシガエル、チチブ、ウキゴリ、
ウロハゼ、ゴクラクハゼ、シマヨシノボリ、メダカ、
テナガエビ、ミゾレヌマエビ、クロベンケイガニ、
ハグロトンボ幼虫、コシボソヤンマ幼虫、ヤマサナ
エ幼虫、カワニナ、イシマキガイ



事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆6月～9月の活動予定◆

☆定例クリーンアップ6/22(日)、7/27(日)、8/24(日)、9/28(日)
9時～12時 ちとせ園集合 ※雨天延期・翌週日曜

☆8/2(土)～3(日)又は8/16(土)～17(日)

ジュニアキャンプ

☆9/20(土) ハゼ釣り～秋の恵み採取

(日程等は決まりしだいお知らせします。)

■学生部の活動は別途お知らせします。

活動の詳細(持ち物など)は、
ホームページをご覧ください。

<http://ji.jyukai.web.fc2.com/>

●2014年度会費納入のお願い

4月から新年度になりました。新年度分の会費の納入を**6月中**にお願いいたします。現金での支払いは間違いのもとになりますので必ず郵便局払込票で支払ってください。

口座記号番号：00230-5-68634 加入者名：ふるさと侍従川に親しむ会

年会費：大人3,000円 大学生以下1,500円

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局 長橋 輝明

TEL&FAX：781-4042 e-mail：jr-nagahashi@seaple.icc.ne.jp

《編集後記》 第21号から続けてきました「私が子どもだった頃番外編」は、今回が最終回です。高桑さん、どうもありがとうございました。「私が子どもだった頃」は、執筆者を募集中です。年齢は問いません。書いていただける方はスタッフまで。(MK)